

木洩れ日に寄り道

一駅×木材×パブリックスペース

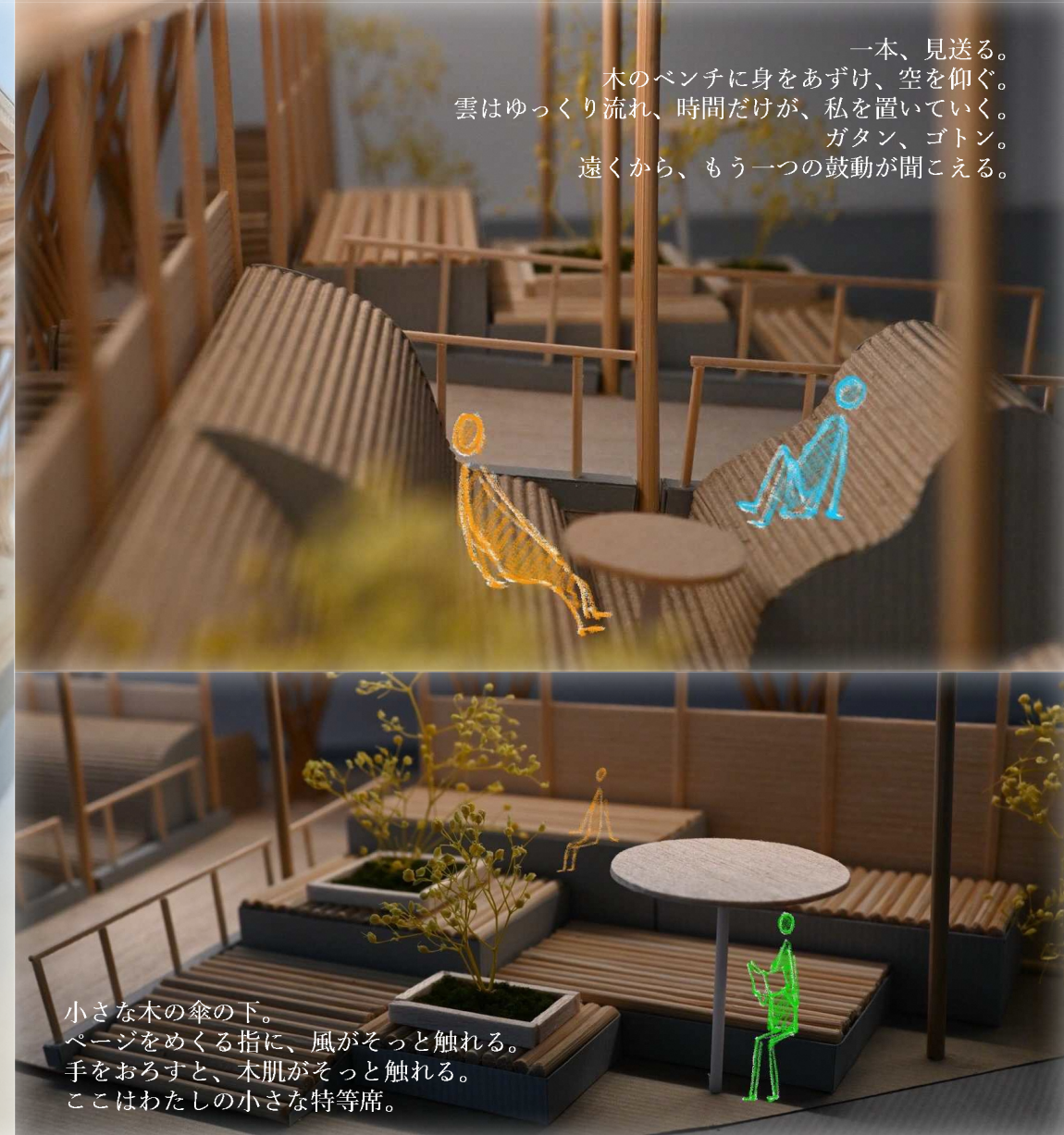


木の温もりに包まれたこの場所は、
急ぐひとにも、立ち止まるひとにも等しくやさらかさを与える。
ふと漂う木の薫りは、忙しさの隙間にそっとしのび込み、心をほぐく小さな余白となる。
この木造の駅舎は、朝のざわめきと安らぎをひとつに抱きとめる。



電車の来る気配を待つあいだ、
木の香りがほのかに漂う駅舎のベンチに、
ひとり腰を下す。

やがて、遠くから響くレールの音。
その響きに耳を澄ませながら、
木のぬくもりに背をあずけ、
旅立ちに心が躍る。



一本、見送る。
木のベンチに身をあずけ、空を仰ぐ。
雲はゆっくり流れ、時間だけが、私を置いていく。
ガタン、ゴトン。
遠くから、もう一つの鼓動が聞こえる。

小さな木の傘の下。
ページをめくる指に、風がそっと触れる。
手をおろすと、木肌がそっと触れる。
ここはわたしの小さな特等席。

1 コンセプト

京のまちを走る嵐電、
その途上に佇む御室仁和寺駅

京都の山々で育まれた木々を
柱や梁に宿し、利用する人々
が五感を通して温もりに触れる
駅舎を計画する。
北側にはひらかれた場を設け
旅人も、暮らす人も、自然と
足をとめて集い合う。
時を超えて、人と人、まちと
自然を結ぶ、どこか懐かしい
「まちの居間」のような駅を
ここに。

2 計画敷地



嵐電北野線の御室仁和寺駅。
駅北側にスペースがある敷地。

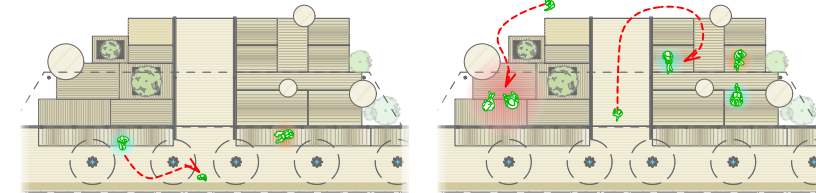
3 プログラム

将来、他の駅に汎用することも見据えユニットごとに容易に分解
できる構造とすることにより、その駅の形状や環境に適した柔軟
な設置計画ができる。

■ユニットにすることで柔軟性、自由度のある空間が生まれる



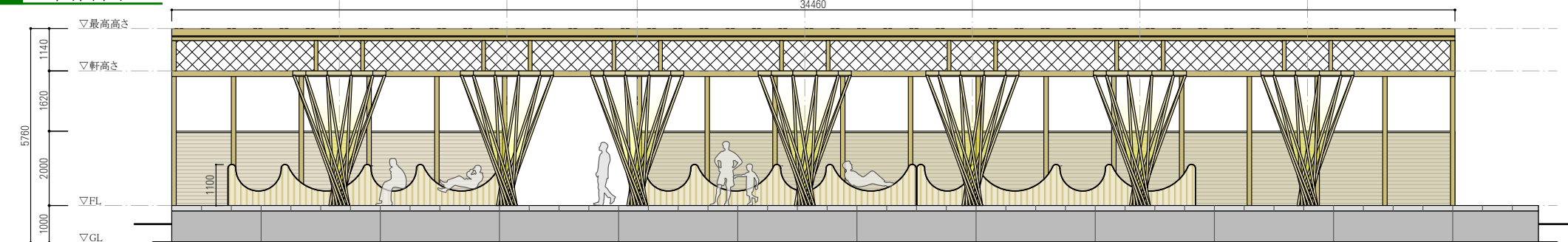
■それぞれの活用方法



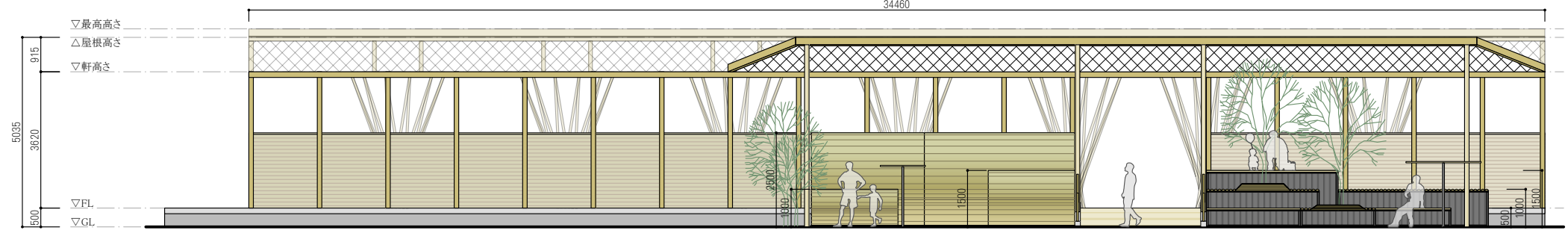
電車を待つひとときを有意義なものに

仕事に行く前に、帰りに
腰をおろしホッと一息

5 立面計画



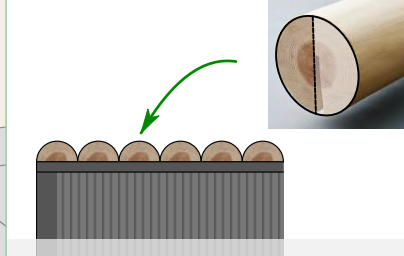
南側立面図 1/150



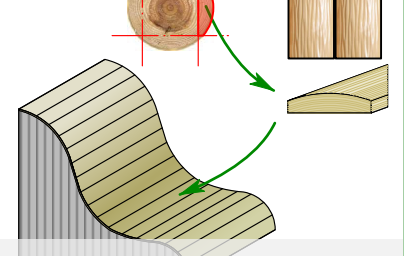
北側立面図 1/150

木のぬくもりが、迎えて、送り出すー

6 北山丸太の活用方法



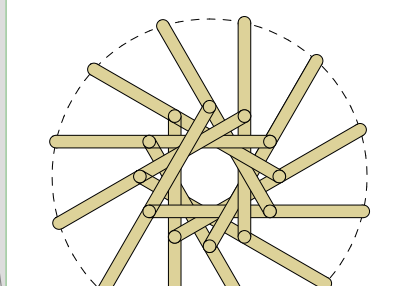
ユニットフロア1
北山丸太の半割り材を並べ、丸太の座り
心地を愉しむ。



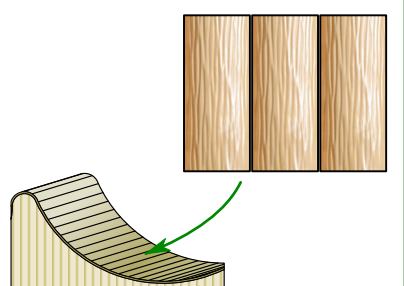
ユニットフロア2
北山丸太の半割り材を用い、繊細な
木肌を愉しむ。



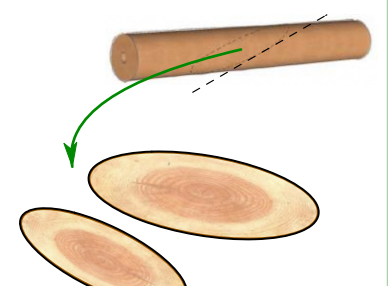
可動式サークルテーブル
杉の板材で作った円盤がテーブルにも
小さな屋根にもなる。



レシプロカル構造の柱
北山丸太でつくる従来の逆向きのレシ
プロカル構造の柱で広がりを感じる。

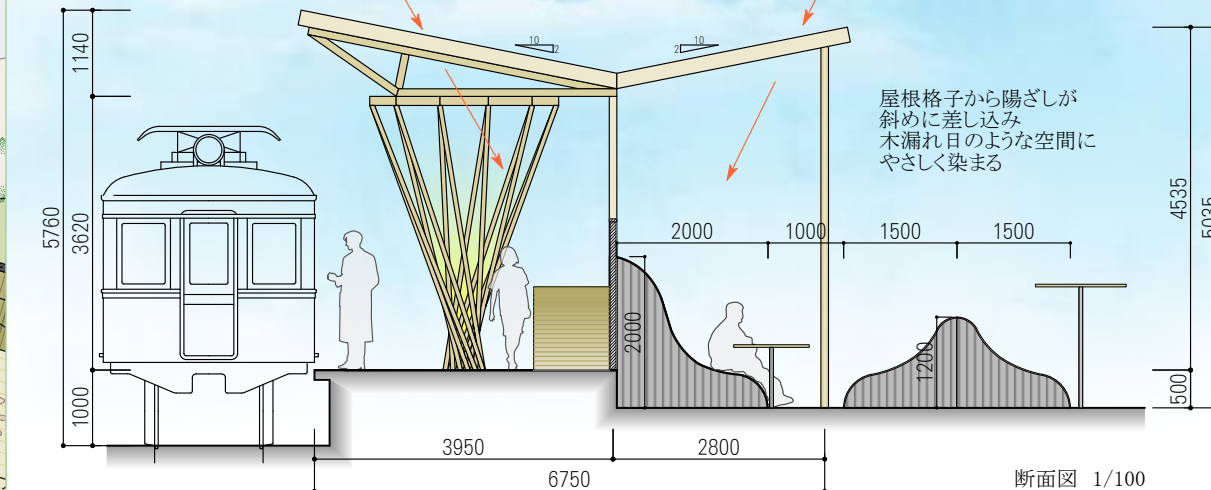


待合チェア
北山丸太の半割り材を用い、繊細な
木肌を愉しむ。



デザインフロアパーツ
北山丸太の半割り材を用い、繊細な
木肌を愉しむ。

7 断面計画



屋根格子から陽ざしが
斜めに差し込み
木漏れ日のような空間に
やさしく染まる